

平成 26 年度図書館事業評価について

「平成 26 年度図書館事業評価」を実施しましたので、結果をお知らせします。
本評価は、「西東京市図書館基本計画・展望計画」に基づき行っています。
この評価表は、図書館ホームページでも公開しています。

平成 28 年 3 月 西東京市図書館

平成26年度図書館事業評価

西東京市図書館 平成28年2月

	【事業内容】	【5年間の獲得目標（26～30年度）】	26年度目標	図書館評価（一次評価）	図書館協議会評価（二次評価）
1 成人サービス	1 利用の拡大を行うため、中央館と各地域館の規模や立地条件、利用状況に応じた特色ある資料構成と書架づくりを行います。	・横積み資料をなくすなど、中央図書館開架を利用しやすいよう整備します。 ・貸出しが多く、ビジネス世代の利用が見込まれるため、保谷駅前図書館開架を文庫・新書・ノベルス・ビジネス関係資料を重視した資料構成に変更します。 ・芝久保図書館に集密書架を増設し、開架スペースに資料保存の役割をもたせます。	利用者層の実態に合わせた蔵書構成を行うため、中央・保谷駅前図書館開架の資料構成の変更を実施します。	・中央図書館のノベルスコーナーを縮小して、スポーツ、言語、文学の棚数を増やし、利用の実態に合わせた蔵書構成を進めました。 ・保谷駅前図書館は利用の要望の多い文庫・新書・ノベルス・ビジネス関係資料のうち、26年度は、新書コーナーを設置し、1,322冊配置し、利用しやすくしました。	それぞれの地域館の需要動向に沿った資料配置計画を評価します。保谷駅前図書館の「新書コーナー」は、利用者に伝わるようPRを望みます。また、書店がカバーできない蔵書の構築にも注意していただきたい。
	2 中央・保谷駅前・芝久保・谷戸・ひばりが丘図書館書庫及び柳沢集密書架の役割を明確にし、その管理方法を確立します。	中央・保谷駅前・芝久保・谷戸・ひばりが丘図書館書庫及び柳沢図書館集密書架の役割を明確にし、効率的に資料を管理するしくみをつくります。	開架室の資料の鮮度を高めるため、中央・保谷駅前・ひばりが丘図書館書庫を整理し、保存場所を確保した上で開架室資料の利用を促進します。	・保谷駅前・ひばりが丘図書館書庫資料の除籍を進め、開架資料を移動させることによりスペースを確保しました。 ・中央図書館書庫は長期保存用と一時引き抜き用の区分けを進めた結果、書庫からの出納時間を短縮しました。	
	3 市民の課題解決を支援するサービスに取り組みます。	健康医療情報、法律情報など、課題解決支援に関わる資料について新規購入や買い替えを進め、新しい情報の提供に努めます。	健康医療情報関係資料の新規購入数を前年度比10%増を目指します。	25年度受入実績1,246冊に対し、26年度は1,498冊で前年度比20.2%増を実現しました。中央図書館の「医学・薬学」分野の貸出しが1,207冊を達成しました。	
	4 成人サービスを年齢別、利用者層別に分け、対象者を絞り込んだ蔵書構成を行い、利用の拡大をめざします。	他部門と協力しながら、ビジネスパーソン支援サービス、シニア支援サービス、青年期サービス、多文化共生サービスを実施します。	成人サービスのうち、ヤングアダルトサービス（対象年齢13～18歳）以降を「青年期サービス」（対象年齢19～25歳前後）として設け、その世代に薦めたい資料提供に努めます。	26年度は中央図書館に青年期サービスコーナーを設置し、131冊配置しました。1年間の利用実績は1,064冊（登録者1人あたり0.02冊、対象1人あたり0.15冊）貸出しました。	
2 レファレンスサービス	5 ・レファレンス資料の蓄積と、ホームページ等で新刊情報をご案内します。 ・書庫資料の更新と開架資料の更新を実施します。	開架室の資料を有効に活用するため、各図書館資料の更新（資料の除架・除籍、移動、購入等）を順次実施します。	開架書架の横積み进行解消するため、中央図書館書庫の除籍を進めます。	「西東京市図書館資料保存基準」に基づき、書庫に収納している約1,300冊を除籍しました。開架書架（3,130冊）の資料を書庫に移動し横積みの解消を進め、開架室の資料を見やすくしました。	横積みは書架の狭隘が原因であり、除籍がやむをえないことは理解していますが、今後とも慎重に願います。保存を考えるなら、他施設への転用も考える必要があります。
	6 ・利用者へレファレンスサービスをPRし、利用者に有用な情報を届けるため、有料データベースを活用したレファレンス事例を公開し、その手法について、市民講座を開催します。 ・情報弱者の解消に向け、利用者に役立つ方策について検討し、具体化します。	利用者対象の有料データベースの活用方法、国立国会図書館アーカイブ資料データベース閲覧講習会、利用者用検索機（OPAC）の利用方法講習会等の開催について、段階的に拡大し、5年間で100回以上の実施を目標とします。	利用者対象の有料データベースの活用方法等について、職員向け研修会を実施し、利用者のための講習会等の準備を行います。	・国立国会図書館アーカイブ資料データベース閲覧のための通信等の環境整備を行いました。 ・利用者を対象とした検索機（OPAC）の利用方法講習会実施のため準備を進めました。 ・有料データベースの利用向上を目的に、26年度は職員を対象としたデータベースの使い方講習会を事業者を講師に実施しました（中央図書館で3回開催、各館で各1回、計8回開催）。	
	7 図書館レファレンスサービスの積極的な利用へのPRを行うため、「調べもののお手伝いをします」コーナーを充実します。	図書館ホームページ「レファレンスサービス」更新回数を、対前年比20%以上増加を目標とします。	ホームページの更新回数目標を12回とします。	更新回数は12回で目標を達成しましたが、25年度末にシステムの入替えがあったため、26年度を基準として今後取り組む予定です。	
	8 ・職員・嘱託員の研修機会の確保と館内研修の拡大を進めます。 ・外部研修で得た知識や技能について、館内研修での還元を行います。	職員・嘱託員の研修を充実させるため、25年度（200時間）比5%ずつの増加を目標とします。	平成25年度実施時間数200hの5%増（210h）を達成します。	・嘱託員（対象49人）に、レファレンス問題の出題および個人々人への添削指導、回答も含めた研修を実施（1人10間）、総時間245時間実施しました。 ・職員・嘱託員（対象61人）に、有料データベース講習会（1人1回1.5時間）実施、総時間92時間で、目標5%増に対し、約60%増を達成しました。 ・研修の実施により、基礎的なフレアレンスの習得に努め、レベルの平準化を図りました。	

	【事業内容】	【5年間の獲得目標（26～30年度）】	26年度目標	図書館評価（一次評価）	図書館協議会評価（二次評価）
3 児童・青少年サービス	9 外国語資料の原書の購入・買い替えを行い、蔵書の充実を図ります。特に、日本語資料の多言語化資料の購入や欧米以外の言語資料の購入をこころがけます。	・外国語資料を5年間で300冊購入します。 ・所蔵する外国語資料のうち、欧米言語以外の資料が占める割合を10%とします。	・資料の更新を行うため、欧米言語の資料の買い替えによる100冊の資料の購入をめざします。 ・蔵書資料のうち、欧米言語以外の外国語資料が占める割合を約5%とします。	・欧米言語の資料を120冊購入し、目標より20%増となりました。 ・欧米言語以外の外国語資料の購入実績はありませんが、蔵書資料のうちの占める割合は、5%を維持しました。	・児童青少年の資料のうち、欧米言語資料の購入が目標を上回った点は評価できます。一方で、非欧米言語の資料購入は絶対数が少なすぎるので、実際の利用状況等を見たうえで大幅な増加を望みます。同時に、日本文化や事情を紹介した資料の充実を図っていただきたい。 ・外国語資料・多言語資料の必要な子ども、保護者への広報はどのようにされているのか。必要とする人にこういう資料がどこで借りられるか、十分伝える必要があります。
	10 ・ヤングアダルト資料についてノンフィクションの充実を図ります。平成25年度ではYA購入冊数の19%であったノンフィクション資料を、前年度比2%程度増を目安として購入をすすめます。 ・平成26年度から成人サービス担当者との共同の選書を月に1回程度設けることによって、選書の幅を広げ、ノンフィクション資料の充実を目指します。	ノンフィクション資料の充実を図るため、5年間でノンフィクション資料の購入目標を、YA購入冊数全体の30%とし、それを維持します。	ノンフィクション資料の充実を図るため、購入資料のうち、21%をノンフィクション資料とする購入をめざします。	ヤングアダルト資料全購入冊数は759冊、うちノンフィクション資料冊数は150冊となりました。全体では、19.8%で、目標達成率94%でした。	ヤングアダルトのノンフィクション割合という目標が大切な視点かと思いました。26年度は94%でおおむね達成ということで、評価できると思いますが、ヤングアダルト向けのノンフィクション資料だけに限定せず、一般向けであっても内容の平易なものを中心に選定し、目標数値を達成するよう努めていただきたい。
	11 ・おはなし会の充実を図ります。 ・行事のPRについて充実を図ります。	・全館での1・2歳児向けおはなし会を実施します。 ・各館のおはなし会の現状を把握・精査して、内容の標準化を図ることにより、参加する子どもたちが、どこの図書館でも一定基準を満たした同等のサービスを受けられるようにします。	参加する子どもたちが、市内どこの図書館でも一定基準を満たした同等のサービスを受けられるようにするため、おはなし会記録用紙の全館統一化を行います。	・おはなし会記録用紙の全館統一化を2月に実施しました。 ・全館のおはなし会について現状調査をし、平成27年4月からの実施に向け、実施内容の標準化について検討しました。	おはなし会記録や現状調査の結果をおはなし会の充実に活かしていただきたい。1、2歳児は保護者がおはなし会に連れてくるので、保護者の本に対する意識を高くする必要があります。また、おはなし会の回数や開催することだけを目標にせず、関わる職員を中心に内容を検討していく仕組みを作っていただきたい。
	12 ・絵本と子育て事業を継続して実施します。 ・絵本と子育て事業のフォローアップ事業を3歳児健診時に実施します。	・絵本と子育て事業を継続して実施します。 ・絵本と子育て事業のフォローアップ事業を3歳児健診時に実施します。	・絵本と子育て事業を継続して実施するため、事業回数28回をめざします。 ・絵本と子育て事業対象者に対する参加者数の目標実施率を95%とします。	・28回実施しました。 ・絵本と子育て事業対象者数1542名、参加者数（絵本セット配布数）1539名、実施率99.8%で目標を達成しました。	目標通りの実施ができており、評価します。 3歳児健診時のフォローアップ事業の早期実現を目指していただきたい。
4 地域・行政資料サービス	13 地域・行政資料室は収集方針に沿って永久保存資料の原紙保存とデジタルデータ化を進めるため、積極的な公開と情報提供に努めます。	・第2次総合計画に位置づけられた「地域・行政資料の電子化の推進」事業を実施します。 ・図書館ホームページ「デジタル西東京市」の充実と「西東京市関係新聞記事索引」の公開を継続します。	・デジタルデータ化を進め、積極的な公開と情報提供に努めるため、下野谷遺跡関係資料、写真資料の電子化（80,000点）を実施します。 ・図書館ホームページ「デジタル西東京市」での公開を実施します。	・下野谷遺跡関係資料も含め、写真資料の電子化（80,000点）を完了し、目標を100%達成しました。 ・「デジタル西東京市」アクセス件数は17,875件に達しました。	下野谷遺跡の100%電子化完了、「デジタル西東京市」への大量のアクセスなど、大変評価できる内容ですが、「デジタル西東京」の存在、使われ方をもっと市民にPRしていただきたい。
	14 西東京市情報を求める市民要請に答えられるようにするため、適切な書架作りを行いコーナーの充実に努めます。	・中央図書館コーナーには周辺地域を含めて市民の暮らしに役立つ最新の行政資料と、郷土にゆかりのある方の著作や、歴史、民俗等西東京市を知るための郷土資料整備に努めます。 ・地域館コーナーには最新の行政資料を整備しコーナーの刷新に努めます。 ・コーナー、書庫、地域・行政資料室を併せて資料整備の拡充に努めます。	地域館コーナーには最新の行政資料を整備しコーナーの刷新に努めるため、地域館蔵書の更新度目標値10%の達成をめざします。	地域館の蔵書の更新度は、保谷駅前11%、芝久保8%、谷戸6%、柳沢7%、ひばりが丘7%となり、目標値10%達成は1館となりました。	地域館での蔵書更新度の達成館は1館だけでしたが、未達成の原因を分析し、次年度以降の目標に生かしてほしい。
	15 西東京市に関する情報の積極的な収集のため、市民や市内活動団体、庁内各部署、特に下野谷遺跡等文化財関連事業との連携を図るよう努めます。	相談、支援、調査、事業開催に努めます。	市民が求める、市民の暮らしに役立つ西東京市に関する新・旧の情報を収集するため、庁内移管資料数を前年度比5%増をめざします。	庁内移管資料数は平成25年度811件、平成26年度1,228件で、対前年度比51%増加となりました。	庁内資料は、地域行政資料として市民にとっても重要なものなので、収集体制を充実するとともに、行政各部署の協力を得られるよう、広報をさらに強化いただきたい。
5 ハンディキャップサービス	16 デিজィー図書の作製を進めます。目標800タイトルのうち、前期計画期間の5年間で450タイトルのデিজィー図書を作成しました。今後5年間に350タイトルを作成します。	今後5年間で350タイトルのデিজィー図書を作製します。	利用者の要求に応えるため、デিজィー図書の作製70タイトルをめざします。	作製は65タイトルで、目標達成率は92.9%でした。	デিজィー資料作製ボランティアの育成およびデিজィー図書作製への積極的な取り組みは大いに評価したい。デিজィー資料利用者の要望を聴き、内容面での充実を図るよう期待します。
	17 国立国会図書館視覚障害者等用データの収集および送信サービスに登録し、作製したデিজィー図書をアップロードして、全国の図書館や点字図書館に資料の提供を行います。	利用者への資料の貸出しを含め、情報提供を拡大するため、デিজィー図書800タイトルのアップロードを目指します。	デিজィー図書のアップロードを平成27年度に実施するため、東京都の他自治体の調査を実施します。	すでにアップロードを実施している自治体は2市、27年度にアップロードする予定は1市3区でした。	「ハンディキャップサービス」の名称について「図書館利用に障害のある人へのサービス」などのような表現への変更を検討いただきたい。
	18 宅配市民ボランティアを活用し、宅配サービスを市内全域に網羅するように整備します。	宅配事業を推進するため、宅配希望者80名の登録を目標とします。	宅配事業を推進するため、多摩地域図書館の調査を実施します。	事業を実施している先進自治体8市を調査し、その結果を基に素案作成を進めました。	宅配サービスの整備は素晴らしいが、このサービスそのものがあまり知られていないため、告知の徹底を望みます。また、高齢者等も来館困難者となるので、CD、テープによる録音作成物の貸出しについても検討いただきたい。
	19 多文化サービスの検討と事業整備を実施します。	多文化サービスの事業開始を目指します。	多文化サービスの事業開始をめざすため、他自治体の調査を実施します。	多摩6都で実施している東久留米市のサービスについて聞き取りを行いました。その他の自治体の調査は未実施です。	サービス開始までの準備期間が長すぎるので、可能なことから実施していくということで「多文化サービス」の前倒しを望みます。